

日本計量新報

計測と科学
毎週日曜発行
日本計量新報社
東京都江東区亀戸7丁目62-16
〒136-0071 TEL 03-5628-7070
FAX 03-5628-7071
https://www.keiryu-keisoku.co.jp/
購読料年間 27,500円(消費税込み)

定量計量専用機
Pack NAVI
速くハカル、
楽にツメル

Yamato
大和計量株式会社 tel:078-918-6577
http://www.yamato-scale.co.jp/

3464・3465
号を合併号とし、4月
14日付で発行します。

日本銀行 2024年3月19日マイナス金利政策から離脱 金利のある経済世界が復活するが、実質はゼロ金利で政策運営

日本銀行は2024年3月18日、19日の2日間の金融政策決定会合で、マイナス金利政策を解除し金利を引き上げることを選んだ。日本銀行の金利の利上げは17年ぶり。例をみない金利政策をつづけてきた日本銀行以下日銀は金利のある普通の金融政策に舵を切った。とはいっても金利はゼロ金利に近い状態で推移することになる。金利のない、そして銀行にお金を積んでおくことを拒否するマイナス金利政策をつづけてきた日本の経済と金融政策が何であったか。2024年春闘の大幅賃上げは政府と労使によって演出された劇であった。産業における労働市場への要求が一定で、若年労働者の総数が減り続ける状態では、労働市場は切迫する。限られる労働市場に対して大企業は高賃金で対応する。大企業の労働者の賃上げがあっても大多数の労働側の賃金は横ばいあるいは低減の状態にある。個人消費の総需要は横ばいあるいは低減がつづく。物価上昇現象は輸入品の石油価格や資材価格の高騰が引き起こしたものだ。日本の経済と産業構造はゼロ金利時代と何も変わっていない。

これはゼロ金利から離脱して金利のある金融政策に移行することを選んだ。大規模な金融緩和策の柱となってきたマイナス金利政策は、2016年1月に実施、これが金融緩和策の柱となっていた。今回の金融政策決定会合はマイナス金利政策からの離脱を決めた。日銀は、急激な金利上昇を抑制するために短期金利の操作を政策手段とし、市場の状況をみながら慎重に対応する。日銀の当座預金に適用する金利を0.1%として、金融機関の間における短期市場での資金をやり取りする金利である無担保コールレート(0%から0.1%ほど)で推移させる。

長期金利と長期金利を低く抑える長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)の金融政策を2016年9月に導入しているが、これを止める。日銀による利上げは2007年2月以来、17年ぶりに。日銀はこれまでと同じ程度に国債の買い入れは継続する。長期金利の急激な上昇に対しては動的に国債の買い入れ額を増額したり指定した利回り国債を無制限に買い入れる指値オペの措置を実施する。

金融市場に大量の資金を供給するために実施してきたETF(上場投資信託)とREIT(不動産投資信託)の新規購入は止める。企業が資金を調達するために発行する社債やCP(コーポレートペーパー)の買い入れを段階的に減らし1年後には終了する。賃金の上昇を伴う2%の物価安定目標の実現が見通せる状況になったと日銀は判断している。これによって異例な日本の金融政策はお金に金利が付く状況に日銀は政策変更する。マイナス金利政策を解除しても追加の利上げは急がず緩和的な環境を続けるが日銀の姿勢である。

日銀の政策決定会合はマイナス金利からの離脱を賛成

7、反対2で決定
マイナス金利政策の解除を9人の政策委員のうち賛成7、反対2で決めた。反対した中村豊明審議委員は、大企業に關係するETF(上場投資信託)の買い入れの終了に賛成8、反対1。ETFなどの買い入れの終了は全員の賛成という結果となった。

岸田首相 緩和的な金融環境維持を支持
日銀がマイナス金利政策の解除などを決定したことに対して、岸田文雄総理大臣は、政府と日銀が2013年に発表し、2%の物価安定目標を掲げた共同声明は見直さない考えを示した。「緩和的な金融環境が維持されることになったことは適切であると考えている」と述べた。総理大臣は、(3ページへつづく)

野口副総裁は、賃金と物価の好循環の強まりを慎重に見極めること、金融環境に不連続な変化をもたらす危険を避けるために長短金利操作を

野口副総裁は、賃金と物価の好循環の強まりを慎重に見極めること、金融環境に不連続な変化をもたらす危険を避けるために長短金利操作を

TANITA デジタルスケール (TL-280)
見やすいイット付
見やすいイット付
大型表示
¥33,000(税抜)



日本銀行植田和男総裁

日銀は2024年3月18日、19日の2日間開いた金融政策決定会合において、マイナス金利ある

日本銀行がマイナス金利政策から離脱
クボタはかり事業100周年記念行事
特集とつきょうの計量
【研究発表】山田研治
【寄稿】或る計測技術者外伝(3) 矢野耕也
器株式会社工業用はかりの寄贈式
株式会社ミットヨ受賞/社説
バスケットボール・川崎ブレイブサンダース



分析天びん
Analytical Balances
AT-R シリーズ

利便性が向上したベーシックモデル

AT-Rシリーズ8モデル:最小読取り0.1mg

応答性/安定性を自在に設定
応答性・安定性が自在に変えられる「スマートセッティング」
5段階のインジケータがあり、測定中にレスポンス重視(R)
スタビリティ重視(S)をカンタンに切替え可能

USBまたはRS-232CでPC接続可
PC、PLCとの接続に便利な2種類のインターフェイスを標準装備
PCへひょう量値を直接転送することでヒューマンエラーを防ぐ

イオナイザ(除電器)併用で安定計量
イオナイザSTABLO-AP(オプション)を使用して、
サンプルや容器を無風で素早く除電
静電気による影響を排除し手間なく信頼性の高い計量を実現



はかりとり作業は R(レスポンス重視)で
振動が気になるときは S(スタビリティ重視)で



株式会社 島津製作所 分析計測事業部

AT-Rシリーズの特徴を、わかりやすく解説
https://www.an.shimadzu.co.jp/balance/products/p01/at_r_d.htm

